

A.脱炭素の暮らしと地域づくり に向けた取組

【重点施策①】

『電力見える化システム』を通じた市民の環境配慮行動の『見える化』

当該計画策定時には「電力見える化システム」の整備、電気使用量を成果指標に掲げていたが、実務としてシステム整備が困難な状況であったため、中間見直しでは、見える化について、より効果を検証できる現実的な成果指標として、環境配慮行動促進事業参加者数（エコチャレンジ事業エントリー者数及び太陽光パネル等の共同購入事業エントリー者数）に改めました。

【成果指標（数値目標）】＊

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度（2024）	（目標値） 令和12年度(2030)
環境配慮行動促進事業参加者数 （エコチャレンジ事業エントリー者数及び太陽光パネル等の共同購入事業エントリー者数）	－	累計 2,806 人 （72.6%）	累計 3,866 人

＊当該計画策定時には「電力見える化システム」の整備、電気使用量を成果指標に掲げていたが、実務としてシステム整備が困難な状況であったため、上記のとおり、見える化について、より効果を検証できる現実的な成果指標に見直しました。

【重点施策②】

公共施設における使用電力の『見える化』と再生可能エネルギーの活用

当該計画策定時には「使用電力量を『見える化』する公共施設数」を成果指標に掲げていたが、『見える化』システム整備が困難な状況であったため、中間見直しでは、より効果を検証できる現実的な成果指標として、計画期間中の公共施設における太陽光発電等の設置箇所数に改めました。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度（2024）	（目標値） 令和12年度(2030)
計画期間中の公共施設における 太陽光発電等の設置箇所数	－	1 箇所	6 箇所（小学校区ごと）

＊当該計画策定時には「使用電力量を『見える化』する公共施設数」を成果指標に掲げていたが、『見える化』システム整備が困難な状況であったため、上記のとおり、より効果を検証できる現実的な成果指標に見直しました。

【重点施策③】

環境配慮型まちづくりの『見える化』と推進

当該計画策定時には「環境配慮型まちづくりチェックリストの提出率」を成果指標に掲げていたが、年間の住宅等の建設件数（総数）の把握が困難な状況であるため、中間見直しでは、実態として、より効果を検証できる現実的な成果指標として、建設工事 着工前の「チェックリスト」の提出者数及び建設工事 完了後「チェックリスト」の提出者数に改めました。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度（2024）	（目標値） 令和12年度(2030)
建設工事 着工前の 「チェックリスト」の提出者数	－	7 人	14 人 （年 14 人増目指す）
建設工事 完了後 「チェックリスト」の提出者数	－	0 人	14 人 （年 14 人増目指す）

＊当該計画策定時には「環境配慮型まちづくりチェックリストの提出率」を成果指標に掲げていたが、年間の住宅等の建設件数（総数）の把握が困難な状況であるため、提出率を算定できず、上記のとおり、実態としてより効果を検証できる現実的な成果指標に見直しました。

B. 循環型の暮らしと地域づくりに向けた取組

【重点施策④】

事業所から排出される食品ロスの削減

成果指標は当初から変更せず、事業系一般廃棄物排出量としましたが、当初想定よりも排出量が大幅に減量したため、令和12年度の目標を上方修正しました。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度	（目標値） 令和12年度
事業系一般廃棄物排出量	5,131 トン	4,642 トン 現状より 9%減 （令和元年度比）	現状より 11%減 （令和元年度比）

【重点施策⑤】

リペア・リフォーム定着のための場づくり（リペア・リフォームストアの整備）

成果指標は当初から変更せず、リユース、リペア・リフォームイベント利用者数としました。令和6年度はイベントを実施できませんでしたが、イベント内容を再検討し、令和12年度までにリニューアル開催することを検討します。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度	（目標値） 令和12年度
リユース、リペア・リフォームイベント利用者数	80 人	開催せず	500 人

【重点施策⑥】

『見える化』システムを通じた、ごみの処理、資源循環の仕組みの『見える化』

成果指標は当初から変更せず、ごみ分別支援アプリ利用者数としましたが、当初想定よりも利用者数が大幅に増加したため、令和12年度の目標を上方修正しました。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和6年度	（目標値） 令和12年度
ごみ分別支援アプリ 利用者数	7,000 人	16,631 人	25,000 人

C.自然共生のくらしと地域づくりに向けた取組

【重点施策⑦】

豊富な生き物が生息する長久手の価値の『見える化』

県民参加型モニタリングへの市内観察記録の投稿数については、自然保護の観点から、希少種の情報を発信することについて、懸念する意見もあることから、引き続きシステムの案内はするものの、投稿数については、下方修正しました。

希少種の生育状況等、動植物の生態状況については、市独自のGISシステムを利用して、情報を集約します。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和 6 年度	（目標値） 令和 12 年度
散策会、勉強会、体験会の参加者数	133 人	200 人	300 人
県民参加型モニタリングへの市内観察記録の投稿数	0 件	49 件（累計）	100 件（累計）

【重点施策⑧】

地域、企業、学生等が主体となった生物多様性保全活動の実践

自然環境の保全には、人の手をかけることが必要となります。こうした団体数が急速に拡大するような状態ではありませんが、既存の活動を支援していきます。

温暖化など、自然環境が変容していくなかで、既存の希少種の生育状況に注目し、可能な限り、生息が維持できるように努めます。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和 6 年度	（目標値） 令和 12 年度
生物多様性保全活動の参加団体数	12 団体	20 団体	同左
生態系保護エリアで確認された希少種※1 の数	大草丘陵 29 種 二ノ池湿地 18 種※2	減少しない※3※4	減少しない※3※4

※1 レッドリスト（国・県 2020 年度版）掲載種のこと。移動性が高く偶発性に影響される鳥類は除く。

※2 平成 27 年度から令和元年度までに一度でも確認された種の数について

※3 過去 5 年間に一度でも確認された種の数について

※4 外部から生物を持ち込むのは、在来の生態系に深刻な影響を及ぼすため一切認めない。

【重点施策⑨】

良好な生活環境の形成と『見える化』

成果指標は当初から変更せず、不法投棄、近隣公害に関する相談件数としました。これまで苦情や相談件数の集計はしていませんでしたので令和 6 年度は未集計となっていますが、統合型 GIS システム導入に伴い、そういったものなどを活用しながら集計を実施します。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和 6 年度	（目標値） 令和 12 年度
不法投棄、近隣公害に関する相談件数	約 300 件／年	未集計	100 件以内／年

【重点施策⑩】

気候変動の影響の情報収集、適応策の研究と『見える化』

当該計画策定時には「気候変動への適応に関する意識調査での優良回答率」を成果指標に掲げていたが、意識調査の実施が困難な状況であったため、中間見直しでは、より効果を検証できる現実的な成果指標として、クールシェアスポット、クーリングシェルターの設置件数に改めました。

【成果指標（数値目標）】

項目	現状値(令和元年度)	実績値（達成度） 令和 6 年度	（目標値） 令和 12 年度
クールシェアスポット、クーリングシェルターの設置件数	—	延べ 39 件（78%） クールシェアスポット 15 件 クーリングシェルター 24 件	延べ 50 件 クールシェアスポット 15 件 クーリングシェルター 35 件